

2014年度 早稲田大学派遣留学 秋募集要項

早稲田大学 留学センター

目次	ページ
1. 対象プログラム概要	p. 2
2. 出願資格	p. 3
3. 説明会・選考日程	p. 10
4. 選考の流れ	p. 12
5. 出願方法	p. 13
6. プログラム別 特別講座	p. 17
7. 派遣留学奨学金	p. 18
8. プログラム選択時の海外での安全情報の確認	p. 20
9. お問い合わせ先	p. 20
10. 出願登録 Waseda-net Portal 画面見本	p. 20
11. 出願時のチェックリスト	p. 21
12. 付録	
<ul style="list-style-type: none"> ・大学派遣留学プログラム誓約書 ・2014年度 早稲田大学派遣留学プログラム（非英語）語学能力証明書 ・大学派遣留学プログラム誓約書 （グローバル・リーダーシップ・フェローズ・プログラム用 補遺） 	



重要

～以下の注意事項を必ずお読みください～

- ❑ 今期の募集対象校の最新情報は、2014年度秋募集対象留学先大学・プログラムリスト <http://www.cie-waseda.jp/programlist/index.html> にてご確認ください。
- ❑ 出願後の辞退は認められません。この冊子に書かれていることを熟読し、プログラムリストの内容をよく確認し、理解したうえで出願してください。特に必要経費については、為替レートの変動に伴い、実際に負担する金額が変わる場合がありますので、十分に余裕を持って準備してください。
- ❑ 留学期間は、プログラムによって異なります。交換留学は原則として1学年間（2学期）ですが、1セメスターのものもあります。中期プログラムは、1セメスターのみです。ダブルディグリー・プログラムには1.5年と2年のものもあります。
1セメスタープログラムで留学をした場合、春学期もしくは秋学期の1セメスター間、海外の大学で学ぶことになります。1セメスターのみの短期集中型留学プログラムとなりますので、出発前の準備が非常に重要となります。
*1学年間の留学が必修となっている国際教養学部 of 学生は、1セメスタープログラムを修了しても留学の要件を満たしませんので、応募に際しては、学部事務所担当者に事前に相談してください。
- ❑ オセアニア地域のプログラム、韓国の一部のプログラム、イタリアのヴェニス国際大学（留学期間は1セメスター）は、来年度春学期にも募集を行います（出発は、2015年の春学期となります）。
- ❑ 各学部・研究科で独自に行われている箇所間協定プログラムについては直接所属箇所の事務所に確認してください。
- ❑ アメリカの Portland State University (TSA) には、テーマと出発時期が異なる3種類のプログラムがあります。

今回の募集	① Transnational Program (TNP)	2014年度2-3月出発
2014年4月募集	② Life Of Health And Sustainability (LOHAS)	2014年度8-9月出発
	③ Waseda Business Program	

1. 対象プログラム概要

(1) 交換留学（以下 EX、学部生、大学院生対象）

海外の協定校から留学生を受け入れ、同時に早大生を派遣する制度です。現地の学生とともに正規科目を履修することができます。一部のプログラムを除いて、早大の所属学部・研究科の学費等を納めることで、派遣先の学費が免除されます。ただし、協定校によってその項目の意味合いや呼び方は異なりますが、College Fee、Technology Fee、Mandatory Fee など、学費以外に現地で別途費用がかかる場合があります。派遣人数は各校あたり、1-3 名程度が通常です。多種多様な国の大学が協定校となっています。

(2) 交換 TSA プログラム（以下 EX(TSA)、学部生対象）

上記の(1)の交換留学生として、主に非英語圏の協定大学に派遣され、下記の(4) TSA プログラムの学生と同じように語学能力向上のための講義を受講します。語学初心者から派遣ができるプログラムがほとんどです。学費は交換留学プログラムと同じく、早大の所属学部・研究科の学費を納めることで、派遣先の学費が免除されます。派遣期間は1セメスターのものと1学年間のものがあります。

(3) 中期プログラム（学部生対象）

2012年度より開始された新しいプログラムです。留学期間は本学の半期に相当し、その間の学籍は「在学」となります。プログラムの内容は語学力の強化が中心です。A. 語学の学習科目のみ履修するプログラム、B. 語学力が一定の基準を満たした場合には、現地学生と通常科目を履修するプログラムがあります。また、春募集ではC. 語学要件を満たすことができれば最初から通常科目を選択することができるプログラムの3種類があります。出発は、他のプログラムと異なり、募集の半年後です。学生は派遣先大学の学費等、およびプログラム開発・運営費（1セメスター5万円）を含む「プログラムフィー」を早大に支払うことによって、留学期間中の早大の学費等が免除されます。

(4) TSA (Thematic Studies Abroad) プログラム（学部生対象）

「テーマに基づいた学習」を中心に履修カリキュラムが組み立てられます。現地大学での授業を補助する語学力向上のためのサポートが多く存在するのが特徴です。学生は派遣先大学の学費等およびプログラム開発・運営費（1学年期間10万円）を含む「プログラムフィー」を早大に支払うことによって、早大の学費等が免除されます（注¹）。派遣人数はプログラムによって様々ですが、概して多めとなっています（プログラムによっては2~3名くらいの場合もあります）。北米、イギリス、アイルランド、オセアニア、ヨーロッパ、中国、台湾などのプログラムがあります。

(5) ISA (Individualized Studies Abroad) プログラム（学部生対象）

交換留学と同様、現地大学の通常カリキュラムの中で、現地のコーディネーターと相談しながら、ある程度自由に科目を履修できるプログラムです。語学力が低い場合、語学の勉強を義務づけられる場合もあります。学生は派遣先大学の学費等およびプログラム開発・運営費（1学年期間10万円）を含む「プログラムフィー」を早大に支払うことによって、早大の学費等が免除されます（注¹）。派遣人数はプログラムによって様々です。北米、イギリス、アイルランドのプログラムがあります。

(6) ダブルディグリー・プログラム（学部生対象）

海外の名門大学に留学し、所定の要件を満たした場合は、早稲田大学を卒業する際に、派遣先大学の学位を取得できるプログラムです。ただし、参加者には各大学が要求する言語の高度な読解力、聴解力、会話力が要求されます。対象となる大学は、北京大学、復旦大学、国立台湾大学、シンガポール国立大学です。学費は交換留学と同様に早大の所属学部の学費等ですが、ダブルディグリー登録料（15万円）が別途必要になります。

1 【注】ここでいう「学費等」とは、授業料、施設費（教育環境整備費）、実験実習料、演習料、実験演習料、学生読書室図書費を指しますが、実際に免除となる項目については、所属学部・研究科によって異なります。また、学生健康増進互助会費は免除の対象とはなりません。留学中に学生健康増進互助会の利用がなかった場合には、帰国後に所定の手続きにて返還請求をすることで返金されます。詳しくは帰国後、学生生活課（学生会館 1F、E-mail: gakuseki-kenko@list.waseda.jp）にお問い合わせください。

※延長生で交換留学にて留学をする学生については、延長生学費ではなく、各学期とも所定額を徴収されます。大学院の延長生の場合、研究指導のみとなっている者で派遣先でも研究指導のみを受けることを出願時に申し出た場合、2005年度以前の入学者については、春期は所定額、秋期は研究指導料のみの徴収となり、2006年度以降の入学者については、各学期とも所定額の50%の徴収となります。

(7) グローバル・リーダーシップ・フェローズ・プログラム(GLFP) (学部生対象)

※「トプリーダー・プログラム(TLP)」から名称が変更されました。

米国名門大学との協働により、2012年度から新たにスタートした交換留学プログラムです。

1年間の海外留学に加え、留学前の留学準備講座・GLFP派遣準備コース、帰国後には米国から早稲田大学に留学中のGLFP参加学生と共に学ぶ1年間の日米共同ゼミやグローバル・リーダーシップ・フェローズ・フォーラムなど、特別な教育カリキュラムが組み立てられており、学部4年間を通じてのプログラムであることが大きな特徴です。2014年度対象となる大学は、カリフォルニア大学パークレー校、コロンビア大学、ジョージタウン大学、ワシントン大学(シアトル)です。学費および別途費用は、上記「(1) 交換留学」の内容に準じますが、GLFPに参加する学生に対しては、留学補助として、早稲田大学指定の往復航空券が支給されます。

2. 出願資格：下記の(1)～(5)を満たさない場合は、自動的に出願が無効になります。

(1) 出願資格

プログラム出願時および留学期間中を通して、本学の学生(正規課程)として在籍し、学業成績・人物ともに優秀な者。プログラムにより、大学院生、学部生、学年、国籍などが限定されているものがあります。

※出願先によっては、早稲田大学で4セメスター履修していること等、別途規定が設けられている場合もあるので、プログラムリストをよく確認のうえ、出願してください。また、出願するにあたり事前に所属学部・研究科に応募の可否について確認してください。

※出願先によっては、二重国籍を保有する学生を受け入れない大学もあります。該当する方は、プログラムリストをよく確認のうえ、出願してください。

※国際教養学部の学生は出発時に3セメスター以上を早稲田大学で履修している必要があります。ただし、春入学の学生で1セメスターの時に交換留学プログラムに出願する場合と、入学時期に関わらずアメリカのPortland State University (TSA)に出願する場合については、2セメスター以上履修していれば出発可能です。

※国際教養学部の学生が留学を終了した直後の学期末にそのまま卒業することは原則として出来ません。

※出願時に4年生で大学院に進学を予定している出願者については、出願資格について事前に学部・研究科に確認してください。

(2) 語学能力(各プログラムで必要とされる語学能力があること)

英語プログラム: 要求スコアを超えたTOEFLのオリジナルスコアカード(Examinee Score Report, 2011年11月以降に受験したもの)を提出できることが出願条件です。プログラムリストに明記されていますが、いくつかのプログラムには、TOEFL-ITPのスコアカードでも出願可能です。ただし、TOEFLの有効期限は2年間であり、学内選考後派遣候補大学への出願の際、およびビザ申請などに必要となる書類が派遣協定校から発行される前に有効期限が切れる場合は、再受験が必要な場合もありますので注意してください。その際、再受験結果が学内選考出願時の点数を下回ってしまった場合は、派遣候補大学からの受入許可が出ない場合もあります。その場合、別の大学への出願は間に合わないの、注意してください。

※TOEFLのExaminee Score Reportは、オンラインでのテスト申込時にMy Home Pageのスコア通知設定(Score Reporting Preference)ページで「オンライン上でのスコア確認及び郵送での通知」を選択しないと発行・送付されません。

※GLFP: 学内選考出願時にTOEFL iBT(TOEFL-ITPは不可)のオリジナルスコアカードの提出が求められます。その際に各派遣候補大学が要求するスコアに達していない場合でも受け付けます。ただし、学内選考後の各派遣候補大学への出願時(2014年1～2月)までには、必ず各大学の要求レベルに達したオリジナルスコアカードを提出することになります。

非英語プログラム: 各種語学能力証明書(原本)の提出が求められているプログラムに応募する場合は、要求レベルを超えたスコアカードの原本を提出できることが出願条件になります。

また、一部の非英語プログラムでは語学初級者でも応募可能な語学プログラム(Language Program)があります。

(3) 必要とされるGPA

プログラムによってはGPAが要求されます。Waseda-netポータルより「成績照会」内の各科目の成績を各自確認し、計算してください。

学内派遣選考で使用するGPAの計算式は以下の通りです。この計算式は留学センターが派遣留學学内

選考用に独自に定めたものです。学部・研究科での算出方法と異なりますので、2010年度以降に入学した方の単位修得状況の照会画面に表示される GPA の数値とは異なります。

$$\frac{\{(4.0 \times A^* \text{取得単位数}) + (3.5 \times A \text{取得単位数}) + (3.0 \times B \text{取得単位数}) + (2.0 \times C \text{取得単位数}) + (0 \times F, G, H \text{等単位数})\}}{\text{総履修単位数 (卒業算入科目として登録した単位数の合計)}}$$

※総履修単位数とは取得単位数と F、G 等となった科目の単位数を合算したものをいう。

成績評価と成績表記の関係は以下の表を参照してください。2009 年以前入学のアジア太平洋研究科の学生も、「学内選考で使用する成績表記」を使用して GPA を計算してください。

評価 (素点)	アジア太平洋研究科 (2009 年以前入学者) ※2010 年以降は右欄 と同一です	学内選考で使用する成績表記
100～94	A ⁺	A ⁺ (4.0)
93～90		
89～87	A	A (3.5)
86～83		
82～80		
79～75	79～75 B ⁺	B (3.0)
74～70	74～70 B	
69～60	C	C (2.0)
59～50	F	F [*]
49～0		G [*]

※F と G の範囲は各学部、研究科で異なります。H は不受験。P と N は GPA 計算には含めません。

※学部の 1 年生で、入学した直後の学期 (1 学期目または 1 セメスター時) に出願する場合は、高校の英文成績証明書を提出する必要がありますので、早めに準備してください。

※学内選考時、GPA が現地大学要求のものに足りないプログラムについては選考対象外となりますので、ご注意ください。

(4) 留学中の必要経費の負担

留学中にかかる費用について、保証人とよく相談し、経済的な裏づけを得てから応募してください。派遣先大学への出願手続や、VISA 取得の手続においては、留学期間中の費用が準備されていることを証明するために、金融機関の残高証明書の提出が出発前に必要となる場合もあります。学内での派遣候補者の Waseda-net 個別通知発表後、派遣先大学へ実際に願書を送付する手続きの中で求められる場合があります。提出時期の締切が早いところでは、2013 年 12 月に設定されているプログラムもあります。留学の奨学金への申込みは、派遣先大学が決定後に手続きの案内を行います。

(5) 留学プログラム応募の際の注意

①選考種別区分と選考優先順

A. グローバル・リーダーシップ・フェローズ・プログラム (GLFP)

対象校： カリフォルニア大学バークレー校、コロンビア大学、ジョージタウン大学、ワシントン大学(シアトル)

※2014 年度については、ペンシルバニア大学への派遣はありません。

- GLFP に出願する学生は、10 月 12 日 (土) に行われるエッセイテスト (英語または日本語) を必ず受験する必要があります。エッセイテストの事前予約は必要ありません。
- GPA が 3.0 以上であることを条件として、上記のエッセイテスト結果と出願書類の内容をもとに書類選考を行い、面接試験の対象者を選考します。
- 書類選考を通過した学生のみ、11 月 5 日 (火) または 11 月 6 日 (水) の面接試験の対象者となります。

す（選考通過者には Waseda-net 個別通知を通じて合格通知が届きます）。

GLFP 派遣候補者の発表は 11 月 14 日（木）までに、同じく Waseda-net 個別通知を通じて行います。全プログラムの中で最も早い選考スケジュールを組んでいるため、他プログラムとの併願が可能です。

GLFP の派遣候補者として選抜された学生は、本プログラム所定の全課程を修了する義務があります（詳細は GLFP 誓約書をご確認ください）。

B. 面接必須英語プログラム

対象校： イェール大学（米・ISA）、ペンシルバニア大学（米・ISA）
カリフォルニア大学バークレー校（米・EX/ISA）
※UCS（カリフォルニア大学群）は対象外です。
※面接必須のカリフォルニア大学バークレー校（EX）は大学院生対象です。
~~ジョージタウン大学（米・EX）~~、カールトンカレッジ（米・ISA）
オックスフォード大学ハートフォードカレッジ（英・ISA）
オックスフォード大学セントピーターズカレッジ（英・ISA）
ケンブリッジ大学ペンブルックカレッジ（英・ISA）
ブリティッシュコロンビア大学（加・EX）
シンガポール国立大学（シンガポール・DD）
パリ政治学院（ル・アブル校含む）の英語プログラム（仏・EX）

（※コロンビア大学（米・EX）は、2013 年度秋派遣より募集中止
トロント大学（加・EX）は、2014 年度秋派遣での募集を行いません）

- 面接必須英語プログラムに出願する学生は、10 月 12 日（土）に行われるエッセイテスト（英語）を必ず受験する必要があります。結果発表は、10 月 18 日（金）、メールにてご連絡します。エッセイテストの事前予約は必要ありません。
- エッセイテストの結果と GPA（3.0 以上を目安）を選考要素とし、面接試験の対象者を選考します。この事前選考を通過した学生のみ、11 月 16 日（土）の面接試験の対象者となります。
- 面接必須英語プログラムの派遣候補者の発表は 12 月 2 日（月）に行いますが、この時点では「仮合格」と位置づけます。詳細は P.12「選考の流れ」を参照してください。
- 面接必須英語プログラムの「仮合格者」として選抜された学生は、ライティング強化講座（2014 年春休み期間中（3 月）、全 10 回実施予定）の受講義務があります（有料）。
- ライティング強化講座の詳細については P.17「面接必須英語プログラムに対するライティング High Advanced 講座について」を参照してください。

C. 中国語ダブルディグリー・プログラム（学部生対象）

対象校： 北京大学、復旦大学、国立台湾大学

- 中国語ダブルディグリー・プログラムに出願する学生は、10 月 12 日（土）に行われる中国語レベル判定試験、中国語エッセイ試験、並びに 11 月 16 日（土）の面接試験を受ける必要があります。試験の事前予約は不要です。
- 中国語レベル判定試験、中国語エッセイ試験の結果に関わらず、基本的には全局面接試験も受験します。
- 中国語ダブルディグリー・プログラムの派遣候補者の発表は 12 月 2 日（月）に行いますが、この時点では「仮合格」と位置づけます。詳細は P.12「選考の流れ」を参照してください。
- 中国語ダブルディグリー・プログラムの「仮合格者」として選抜された学生は、選抜後中国語ライティング講座を 3 月から 7 月にかけて受講する義務があります（有料）。詳細は、決まり次第、受講者にメールにて連絡します。

D. 上記 A、B、C 以外のプログラムのうち非英語プログラムの EX プログラム、EX（TSA）プログラム

(1セメスタープログラム含む)、TSAプログラム

- ・非英語プログラムに出願する学生は11月16日(土)の面接試験を受ける必要があります。
※非英語プログラムのうち、EX(TSA)プログラム、TSAプログラム、または中期プログラムのみを志望している場合は、面接試験の受験は必要ありません。
※また、中国語のEXプログラムに出願する場合は10月12日に実施する中国語レベル判定試験を受ける必要はあります。中国語エッセイ試験を受験する必要はありません。

E. 上記A、B、C、D以外のプログラム(英語のEX、TSA、ISA、中期プログラム)

- ・留学センターでは、筆記試験・面接試験を行いませんが、所属学部・研究科での留学適性判断において各所属学部・研究科による面接が実施される場合があります。

上記D、Eにおける1セメスター・中期プログラムは、国際教養学部(SPI学生)において必須とされている1学年間の海外留学の条件を満たしませんので注意してください。

以上、大きく分けてA、B、C、D、Eのプログラムから最大で第7志望まで選択することができます。

AのGLFPについて、他プログラムとの併願は可能ですが、GLFPを志望する場合は必ず第1志望での選択となります。GLFPが第1志望以外で選択されていた場合は、GLFPへの出願が無効となります。

出願時点では、あくまでもGLFPとしての出願になります。志望校については出願必要書類のGLFP専用論文の中で志望動機と共に述べてください。ただし、対象校4校のうち、志望校以外への派遣候補者となることもあるので、あらかじめその点を理解の上、出願を行ってください。

BとCについては、第1~3志望の範囲でのみ選択可能です。またBとCを併願することも可能ですが、その場合には、CをBよりも上位志望に設定し、第1~3志望までの間で選択してください。

DもしくはEを併願する場合には、B、Cより下位志望で選びます。

例えば、以下のような選択方法が可能です。

第1志望：GLFP

第2志望：シンガポール国立大学 (シンガポール・ダブルディグリー・プログラム)

第3志望：ペンシルバニア大学 (米・ISA)

第4志望：ヨーク大学(英・ISA) (A、B、C、D以外の英語プログラム)

*ヨーク大学を第1志望で選択し、第2志望にペンシルバニア大学を選ぶことはできません。

また、EXプログラムで英語と非英語のプログラムがある場合には、**非英語プログラムの選考を先に行うため**、DとEのうちのEXプログラムを併願する場合には、非英語EXプログラムを英語EXプログラムよりも上位志望に設定し、Eをその下位志望とする場合のみ併願が可能です。1つの派遣先大学に英語プログラムと非英語プログラム並存する場合には、非英語プログラムの選考が優先されます。非英語プログラムの選考で派遣枠が埋まってしまった場合には、英語プログラムの選考は行われません。

例えば、以下のような選択方法が可能です。

第1志望：GLFP

第2志望：シンガポール国立大学 (シンガポール・ダブルディグリー・プログラム)

第3志望：パリ政治学院のフランス語プログラム(仏・EX)

第4志望：~~ヨーク大学(英・ISA)~~ → 北京大学(中・TSA)

第5志望：~~北京大学(中・TSA)~~ → ヨーク大学(英・ISA)

*ただし、ヨーク大学を第3志望で選択し、第4志望にパリ政治学院のフランス語で行われるプログラムを選ぶことはできません(パリ政治学院の場合、英語で行われるプログラムもあります)。

以上の条件以外には、制約はありません。

7つ全てTSAプログラム、もしくは全て交換留学プログラムを選ぶことも可能です。

応募状況によっては12月2日(月)の候補者発表後に、冬募集(2次募集)を行うことも検討していますが、必ず行うとは限りません。慎重に検討したうえ、なるべく多くの志望校をWEB出願登録時に入力するようにしてください。ただし、今回の募集で派遣先が決定した場合、辞退して冬募集へ出願することはできません。また、候補者として選ばれた後は原則として辞退が認められません。出願する際には、このことを十分に念頭に置き手続きを行ってください。

② 選考方法

学業成績 (GPA)、語学能力 (TOEFL 等の公的試験など)、学習・研究計画書、書類出願用英語による志望理由書 (GLFP のみ)、所属学部・研究科での適性判断 (方法は各所属箇所により異なる)、面接 (GLFP、面接必須英語プログラム、中国語ダブルディグリー・プログラム、非英語 EX プログラム)、エッセイテスト (GLFP、面接必須英語プログラム、中国語ダブルディグリー・プログラム) 中国語レベル判定試験 (中国語ダブルディグリー・プログラム、中国語交換プログラム) を選考要素として総合的に判断し、より総合力が高いと判断された学生から志望順位の高いプログラムの派遣候補者に選出します。

③ 各大学、各プログラムの詳細な調査

1 つの大学で複数のプログラムが並存していることがあります。例えば、ワシントン大学 (シアトル) には、GLFP、交換 (EX)、TSA、中期のプログラムがあります。そのため、応募するプログラム自体の早大生受け入れ人数は少なくとも、別プログラムでの参加学生も含めた場合に、キャンパス全体での早大生の数が多くなる場合があります。また、一つの大学に複数のプログラムがある場合、それぞれプログラムコードが異なります。プログラムの選択をする際には、大学名のみではなく、プログラム内容を含め、コード番号の選択に間違いのないように注意してください。

④ 派遣先から求められる語学能力・語学プログラム

学内選考の際に TOEFL の条件を満たしていても、派遣先の大学で語学コースへの参加を求められることがあります。また、非英語圏に留学する場合にも、語学力が十分でないと、派遣先の大学の判断により、派遣先の大学で語学コースへの参加を求められることがあります。その際、語学コースに参加するための費用が、TSA、ISA、中期プログラムに参加する場合に支払うプログラムフィーに含まれていないこともありますので注意してください。交換留学の場合でも、語学コースや特別なコースに参加する場合、早大の学費等の支払いに加えて、現地で別途追加費用の支払いが必要な場合もあります。

⑤ 派遣留学期間

今回募集するプログラムで留学する場合、留学期間終了の次の学期から早稲田大学に復学することが原則です (留学プログラムの延長は、原則認められていません)。 また、特別な事情を除いて、プログラムにはその期間終了まで参加することが求められます。留学期間中は、早稲田大学での科目履修はできません。ただし、留学終了年の夏季海外研修科目は秋学期の科目であるため履修可能です。希望者はメールにて留学センターにお問い合わせください。

また、本人の事情で途中帰国した場合には、プログラムフィー、プログラム開発・運営費、ダブルディグリー登録料、早大学費等は返金されません。

⑥ TSA・ISA・中期プログラムのプログラムフィーに関して

プログラムフィーには、現地での学費、プログラム開発・運営費 (1 学年期間 10 万円、1 セメスター期間 5 万円) などが含まれています (プログラムリストの "Estimated Tuition" に示されている金額)。宿舍費や食費 (プログラムリストの "Estimated Room & Board" に示されている金額)、また、設備費やオリエンテーション費等は渡航後にご自身で派遣先大学に支払うことがほとんどですが、いくつかのプログラムでは、プログラムフィーに加えて早稲田大学に納めていただく場合があります。

また、プログラムリストにある現地通貨建ての金額は、昨年度実績をベースにした目安ですので注意してください。派遣先大学の学費、為替レートの変動、外国政府の財政状況や政策変更などに伴い、次年度には金額が上昇する場合があります。実際の納入は、学内規定レートにて日本円に換算した金額を留学センターの指定口座に送金いただきます。

プログラムフィーは、指定期日までに留学センターの指定口座にお振り込みいただきます。

※同じ国への留学であっても派遣先大学において請求金額が確定する時期によって換算レートが変動します。

※"Estimated Room & Board" の金額には昨年度実績ベースではないものも含まれています。

⑦ 交換留学プログラム (GLFP を含む) で留学する場合の費用について

交換留学プログラムに参加する場合、一部のプログラムを除き、早稲田大学での所属箇所の学費等を支払えば、派遣先大学での学費が免除されます。ただし、協定校によってその項目は異なりますが、College

Fee、Technology Fee、Mandatory Fee 等、学費以外に現地で別途費用がかかる場合があります。その金額は派遣先大学によって異なりますが、場合によって年間 1,000US ドルを超える負担が必要となる場合があります（特に北米の交換協定校、オレゴン州立大学連盟、カリフォルニア州立大学連盟、ニューヨーク州立大学等）。詳細については、留学センターインフォメーションルーム（22 号館 3 階）でご確認ください。

※延長生で交換留学にて留学をする学生については、延長生学費ではなく、各学期とも所定額を徴収されます。大学院の延長生の場合、研究指導のみとなっている者で派遣先でも研究指導のみを受けることを出願時に申し出た場合、2005 年度以前の入学者については、春期は所定額、秋期は研究指導料のみの徴収となり、2006 年度以降の入学者については、各学期とも所定額の 50% の徴収となります。

⑧ 査証取得

査証（ビザ）は渡航先国の目的において定められた入国や滞在に必要な書類の一部であり、各国の移民法に準じて定められています。

査証の取得に関する諸条件をはじめ、その手続き（申請）方法、必要書類（申請書等）や申請費用などにおいても全て渡航先国によって異なり、またその条件等は予告なく頻繁に変更されます。

なお、留学先ごとの査証取得の際、残高証明、翻訳証明、銀行口座通帳等の提出を必要とする国もあり、諸手続の際はそれらの書類を速やかに準備しなくてはなりません。留学を希望する国の大使館や関連ホームページで必ず最新の情報（必要書類・手続料・申請期間等）を得るようにしてください。

また、査証取得の手続きの責任は、全て申請者の責任として委ねられていることをご理解ください。

⑨ 派遣先大学での科目登録・早稲田大学での単位認定

全てのプログラムにおいて、前提とされる科目（Pre-requisite）を履修していなかったり、履修人数の制限により、派遣先大学での希望の学部での履修が認められなかったり、受講を希望する科目に登録できないことがあります。

プログラムは、皆さんが学ぶに値すると留学センターが判断した内容になっていますが、現地大学で取得した単位が早稲田大学の所属学部・研究科の単位として、自動的に認定されるわけではありません。派遣先大学での取得単位がどれだけ早大での単位として認定されるかについては、各所属学部・研究科の判断に委ねられています。修業年限（学部は 4 年）での卒業が保証されてはいませんので、事前に所属学部・研究科にもよく相談して、誤解のないようにしてください。

⑩ 派遣候補者となった後の辞退

決定後に正当な理由なく辞退することはできません。正当な理由なく辞退した場合、それ以後の留学センター派遣留学プログラムへの応募資格が失われます。

万が一プログラムへの参加が非常に難しい状況となった場合は、可能な限り早い段階で、まず留学センターに相談してください。

⑪ 早稲田大学内選考と派遣先大学からの受入許可

この募集要項は、早稲田大学内での選考についてのものです。この学内選考を経て派遣候補者に選ばれた皆さんは、早稲田大学から推薦された学生として、派遣先大学に応募する資格を得たこととなります。しかしながら、それは派遣先大学からの受入許可を 100% 保証するものではありません。実際に留学できるかどうかは、派遣先大学の選考によって最終決定がなされますので注意してください。

また、派遣候補者に選ばれた後においても選択科目、学業不振、書類提出の締め切りを守らない場合、必要な手続きを行わない場合や、オリエンテーションへの出席が著しく悪い場合など、留学をするにふさわしくないと留学センターが判断した場合は、渡航後であっても、留学中止の勧告を行うことがあります。留学センターからの案内には十分に注意してください。

⑫ 早稲田大学義務付け海外旅行保険への加入

留学センターの長期派遣留学プログラム（1 セメスター・中期含む）に参加する学生は、いかなる理由にかかわらず本学の指定する海外旅行保険（東京海上日動火災の海外旅行保険）への加入が義務付けられており、加入しない状態での留学は認められていません。本学指定の海外旅行保険は、一般的な保険料に比べ割引率が高いものとなっています（12 ヶ月で 10 万円～13 万円前後/2013 年度参考）。しかし、派遣先大学においても健康保険や医療保険への加入を求められる場合には、早稲田大学義務付け保険加入と合わせて、必ず現地保険への加入が必要です。派遣国、派遣先大学や期間によっても異なる

りますが、留学期間中の保険料として小額な場合で3万円から、高額な場合だと18万円程度必要な場合があります。

*精神的疾患、歯の治療費、また持病と見なされる場合(既往症)には早稲田大学が加入を義務付けている保険の補償対象外となります(その他の補償対象の有無は保険補償規定に準じます。)

*本学義務付け保険の保険料は、前年度における事故損害件数や補償額により変動します。保険料のお支払いについては、派遣手続き開始後にすみやかに指定の保険代理店口座へお支払いをいただく必要がありますので、あらかじめご了承ください。なお、2014年度の正式な保険料確定は12月下旬以降となる予定です。

⑬ 海外携帯電話レンタルサービスへの加入

留学期間中の様々なリスクに対応するために、派遣学生全員へ留学センターが包括契約をする海外携帯電話レンタルサービスに必ず加入いただきます。登録費用や毎月の基本料は全て無料となります。お支払いいただくのは、使用した通話料^{*}、および通信料(ショートメール料金含む)のみとなります。加入手続きの際は、清算に必要なクレジットカードの登録が必要です。

^{*}着信料は国により異なります。

⑭ 併願に関して

所属学部・研究科の箇所間協定によるプログラムとの併願は認められません。ただし、留学センターが結果を発表する前(11月29日(金))までに、その結果が判明する場合はこの限りではありません。つまり、出願の段階では併願しておいて、その後箇所間協定によるプログラムに選出された場合には、書類提出を行わずに出願を取り下げることは可能です。

⑮ 冬募集(2次募集)に関して

この秋募集の応募状況によっては、12月2日(月)の候補者発表以降に、冬募集(2次募集)を行う場合があります。ただし、冬募集を行う場合でも応募可能なプログラムは限られます。

⑯ オーストラリアのプログラムに関して

日本国籍以外のオーストラリアの留学ビザ申請には、IELTSやTOEICなどTOEFL以外の試験でも各協定校が要求するスコアをあらかじめ取得していることが条件となっています。したがって、協定校の要求TOEFLスコアをクリアして早稲田学内の選考を通過し本学の派遣候補者となった場合でも、その後必ずTOEFL以外の指定試験を受験して所定の要求スコアを取得することが必要です。指定試験の所定スコアをクリアしないとビザの申請をすることができず、結果的に渡航不可となりますので十分ご注意ください。なお、ビザ申請についての情報は予告なく頻繁に変更されますので、オーストラリアの協定校へ出願される場合には最新情報をご自身でもしっかりと確認し取得するように努めてください。

オーストラリアのビザ申請詳細ウェブサイトをご参照ください。<http://www.immi.gov.au/>

3. 説明会・選考日程		
日程	時間	内容・会場
10月4日(金)	12:20~17:30	秋の留学フェア:
10月5日(土)	10:30~17:30	国際会議場1階井深大記念ホール、3階会議室
10月8日(火)	12:15~13:00 18:15~19:00	グローバル・リーダーシップ・フェローズ・プログラム(GLFP) 出願希望者対象説明会(早稲田キャンパス26号館302教室)
9日(水)	12:15~13:00	*8日は日本語、9日は英語にて行う
10月8日(火) 正午~ 10月21日(月)中 *10月22日(火)の 00:00締切り。	終了時間に注意 (締切後の登録 注) は、いかなる理 由があろうと受 付けません。)	WEB出願登録(Waseda-netポータルにて) 注) ・最終日は大変混み合い、締め切り時間内に受け付けができず、出願ができないことがあります。早めに希望校を検討して登録するようにしてください。 ・WEB上でTOEFLスコアを入力するため、TOEFL Examinee Score Report(原本)は、必ずこの期間までに取得しておいてください。iBT受験者はオンライン上で確認できるスコアをプリントアウトして提出していただいてもかまいません。ただし、後日スコアカードの原本を提出していただく必要があります。 ・WEB上で登録されたTOEFLスコアと後日提出されるTOEFL Examinee Score Report(原本)に記載されたスコアが異なっていた場合、出願は無効となりますのでご注意ください。 ・TOEFLのExaminee Score Reportは、オンラインでのテスト申込時にMy Home Pageのスコア通知設定(Score Reporting Preference)ページで「オンライン上でのスコア確認及び郵送での通知」を選択しないと発行・送付されません。
10月12日(土)	中国語筆記試験 10:00~12:00 中国語エッセイ試験 12:30~13:30 面接必須英語エッセイ試験 14:30~15:30 GLFPエッセイ試験 16:00~17:00	中国語レベル判定試験(中国語プログラム応募対象) ・ダブルディグリー、交換留学⇒受験必須 ・EX(TSA)、TSA、中期プログラムに出願する場合⇒受験不要 中国語エッセイ試験(中国語プログラム応募対象) ・ダブルディグリー⇒受験必須 ・EX、EX(TSA)、TSA、中期プログラムに出願する場合⇒受験不要 面接必須英語出願者対象英語エッセイテスト ・対象プログラムに出願するためには受験必須です。 WEB出願登録の締め切り前ですが、応募予定の場合は必ず受験してください。 ・エッセイテストの結果とGPA(3.0以上を目安)を選考要素として、面接試験の対象者を選考します。 GLFP出願者対象エッセイテスト ・GPAが3.0以上であることを条件として、英語または日本語のエッセイテストの結果及び出願書類の内容を選考要素として、面接試験の対象者を選考します。 ・対象プログラムに出願するためには受験必須です 場所:後日留学センターHPにて連絡
10月18日(金)		面接必須英語プログラム/エッセイテスト結果発表 *面接必須英語出願者にメールで連絡します。 *中国語プログラムについては、中国語レベル判定試験、中国語エッセイ試験の得点にかかわらず全員面接を行います。
10月23日(水)~ 10月25日(金)	12:00~17:00	出願必要書類受付(早稲田キャンパス22号館8階会議室) *GLFP出願者は10月23日(水)、24日(木)の2日間。 注)最終日は大変混み合い、締め切り時間内に受け付けができず、出願ができないことがあります。早めに提出するようにしてください。

10月31日(木)～ 11月22日(金)	所属事務所より 後日連絡	所属学部・研究科別推薦候補者適性判断(面接等) 内容は各所属学部・研究科によって異なります。
11月1日(金)		GLFP書類選考結果発表(Waseda-net個別通知にて)
11月5日(火)～ 11月6日(水)	16:30～	GLFP面接試験 注)書類選考通過者のみ
11月14日(木)		GLFP選考結果発表(Waseda-net個別通知にて)
11月16日(土)	後日連絡	非英語面接試験(非英語EXプログラム全応募者対象※EX(TSA)プログラム、TSAプログラム、中期プログラムのみの志望者は除く) 中国語ダブルディグリー・プログラム面接試験 英語プログラム面接試験(面接必須英語プログラムのみ) 注)エッセイテスト通過者のみ
12月2日(月)	13:00	選考結果発表(Waseda-net個別通知にて)
12月13日(金)	1回目12:15～ 2回目17:45～ (開始時間は予定)	派遣候補者決定直後オリエンテーション *必ず出席してください(GLFP含む)。当日は出欠を確認します (スケジュールは変更になる場合もあります。)
12月中～下旬	後日連絡	GLFP候補者オリエンテーション *GLFPに特化した内容となります。GLFP派遣候補者は2つのオリエンテーションに必ず出席してください。
2014年 3月より順次	後日連絡	<input type="checkbox"/> GLFP 留学準備講座・GLFP派遣準備コースの受講(詳細後日連絡) <input type="checkbox"/> 面接必須英語プログラム ライティング強化講座の受講(詳細後日連絡) <input type="checkbox"/> 中国語ダブルディグリー・プログラム 中国語ライティング講座の受講(詳細後日連絡)

*2013年12月～2014年8月にかけて、派遣候補先大学への出願手続きならびに派遣候補先大学での選考が行われます。

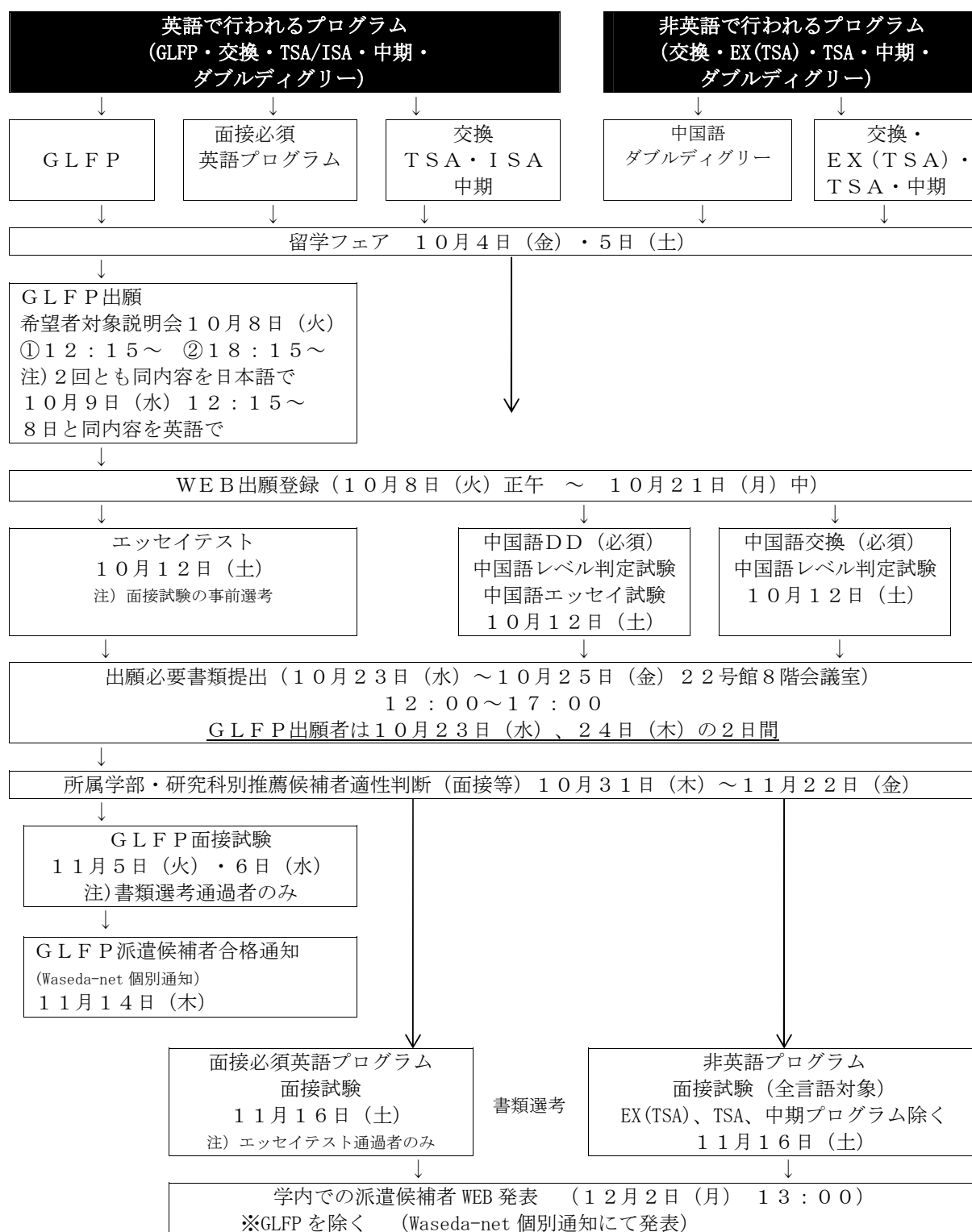
*イェール大学ISAプログラムに関しては12月2日の選考結果発表後、12月中旬に出願書類をイェール大学へ提出し、翌年1月にイェール大学による面接試験(日本にてスカイプ予定)が行われる予定です。最終合否は翌年1月下旬に発表予定です。

Waseda-net ポータル個別通知の確認方法

The screenshot shows the Waseda-net portal interface. At the top, there is a search bar and navigation tabs. The main content area displays a notification titled "早稲田 政経太郎さんへのお知らせ" (Notice to Masahito Hayashi). The notification text includes: "英語日-37の試験結果について" (Regarding the results of the English Day-37 exam), "2004/06/17 第一文学部" (Faculty of Letters, 2004/06/17), and "【重要】2004年度前期試験実施方法発表について" (Important: Regarding the announcement of the 2004 first-term exam implementation method), "2004/06/19 第一文学部" (Faculty of Letters, 2004/06/19). A callout bubble with a white background and black border points to the notification area, containing the text "ここに個別通知のメッセージが表示されます。" (Individual notification messages are displayed here.).

選考結果の発表は、この画面の「〇〇さんへのお知らせ」で行います。
お知らせの表示期間は、結果発表日から3ヵ月間です。その後、自動的に消えます。

4. 選考の流れ



(注) 面接必須英語プログラムおよび中国語ダブルディグリー・プログラムについては、12月2日(月)の結果発表で派遣候補者を発表しますが、その時点では「仮合格」と位置づけます。仮合格の後、2014年春休み期間(予定)にライティング講座を受講いただき、同講座における評価と入学以降2013年度末までの所属箇所の学業成績を確認した上で総合的な判定を行います。その結果に基づき、最終的な派遣候補者を派遣予定先大学に推薦します。

5. 出願方法

1. WEB 出願登録（10月8日（火）正午～10月21日（月）中）*10月22日の00:00締切り
Waseda-net ポータル (<https://www.wnp.waseda.jp/portal/portal.php>) 「国際交流・留学」の「派遣留学-WEB 出願登録」から出願者本人が、WEB 出願登録をしてください。

具体的入力が必要な下記項目①～⑤を事前に準備しておくこと、スムーズな出願登録手続きが行えます。

① 個人情報

◇ ローマ字（半角大文字）（原則：パスポートと同じ表記、ない場合は通称表記）による氏名、国籍、電話番号、携帯電話、Waseda-net メールアドレス、緊急連絡先氏名と電話番号。

※派遣先の大学によっては、日本国籍以外の国籍を所有する学生の留学を認めていない場合があります。二重国籍をお持ちの方は、必ず質問項目に記入してください。

② 志望プログラム

◇ 以下の条件を満たしたうえで、最大で第7志望まで選択することができます。全て TSA、もしくは全て交換留学を選ぶことも可能です。

◇ GLFP を志望する場合は、必ず GLFP を第1志望として選択します。GLFP が第1志望以外で選択されていた場合は、GLFP への出願が無効となります。

◇ 面接必須英語プログラム（面接必須英語）と中国語ダブルディグリー・プログラム（中国語 DD）については、第1志望～3志望の範囲で選択することができます。面接必須英語と中国語 DD を併願することも可能ですが、その場合も第1～3志望の中で選択します。

◇ 面接必須英語と中国語 DD とそれら以外のプログラムを併願する場合には、面接必須英語と中国語 DD の下位志望においてのみ選択できます。例えば、面接必須英語の対象プログラムから第1志望を選び、第2志望以下で面接必須英語以外の英語プログラムを併願できますが、その逆の志望順で併願することはできません。

◇ 英語プログラムと非英語プログラムを併願する場合には、非英語プログラムの選考を先に行うため、非英語プログラムを英語プログラムよりも上位志望に設定し、英語プログラムをその下位志望とする場合のみ併願が可能です。

◇ あらかじめ志望プログラムを確定したうえで検索画面から選択して、「選択確定」ボタンで確定してください。同一大学で複数のプログラムがある場合がありますのでご注意ください。

③ 語学能力証明

英語によるプログラムに出願の場合は、希望するプログラムの要求スコア（Section スコアも含む）を超える TOEFL の iBT, CBT, PBT いずれかのオリジナルスコアカード（Examinee Score Report）。TOEFL-iBT については、WEB 画面で確認できるスコア表のプリントアウトでも受け付けます。ただし、後日そのプリントアウトと同一のオリジナルスコアカードを必ず提出してください。

※TOEFL の Examinee Score Report は、オンラインでのテスト申込時に My Home Page のスコア通知設定（Score Reporting Preference）ページで「オンライン上でのスコア確認及び郵送での通知」を選択しないと発行・送付されません。

◇ GLFP については TOEFL iBT (TOEFL-ITP は不可) のオリジナルスコアカード（Examinee Score Report）の提出が求められます。その際に各受入大学が要求するスコアに達していない場合でも受け付けます。ただし、学内選考後の派遣候補大学への出願時（2014年1～2月）までには、必ず各大学の要求レベルに達したオリジナルスコアカードを提出することになります。

◇ TOEFL-ITP で出願可能なプログラムのみを希望する場合には、TOEFL-ITP のスコアカードのみの提出でかまいません。ただし、iBT, CBT, PBT いずれかのオリジナルスコアカード（Examinee Score Report）が必要なプログラムも併願している場合には、両方のスコアカードが必要です。TOEFL-ITP のみの提出の場合、iBT, CBT, PBT 要求プログ

- ラムは選考対象外となります。
- ◇ 非英語によるプログラムに出願する場合は、今回募集対象となる言語種別を選択してください（複数選択も可）。ただし、教員による語学能力証明書など、必要な書類は選択した言語それぞれに必要です。
 - ◇ 非英語によるプログラムに出願の場合は、語学学習状況・学習計画報告に語学学習歴（学習年数〇年、学習機関〇〇、週〇時間〇コマ、のべ学習時間〇時間）と、現在および今後の学習計画、その他語学学習や能力に関しての特記事項があれば記入してください。
 - ◇ 該当言語で行われる授業やプログラムについていけるレベルを有する客観的な証明として、「a)各種語学能力試験等公的試験のスコアやレベル(仏検、独検など)」をできる限り提出してください。また、その言語を指導してくれた学内教員またはその言語に堪能な「b)教員による語学能力証明」については必ず提出してください。教員による語学能力証明は教員の方に留学センター指定の厳封用封筒で厳封してもらった状態で留学センターに提出してください。
 - ◇ 応募プログラムが、母国語のプログラムなどの理由で、語学能力証明書を提出できない場合には、その理由を証明書欄に記述して、提出してください。
 - ◇ 既に他の留学プログラムにて現在留学中の場合は、理由にその旨を記入し、現在の語学能力を証明できる教員に依頼し、厳封した状態で提出してください。

④ 学習・研究計画書

- ◇ 制限字数内で記入してください。非英語プログラムのみ希望する場合は、英文による記入は不要ですので、「非英語プログラムのみに出願」と記入ください。国際教養学部（SP2）、政治経済学部（EDESSA）、社会科学部（現代日本学プログラム）、3理工学部（理工国際教育プログラム）の学生で非英語プログラムのみに出願する場合は、英語で学習・研究計画書を作成してください。

※下記の表を参照して、出願プログラムに必要な言語で書かれた学習・研究計画書を提出してください。

	英語プログラム (GLFP 含む)	非英語プログラム (中国語 DD 除く)	中国語 DD プログラム
SILS の SP2 の学生など、入学時に日本語能力が求められていない学生	英文	英文	英文
上記以外	英文あるいは和文の いずれか 1 言語	和文	和文

問題

次の問題に対して、自分自身でよく考え、自らの言葉で記述しなさい。和文・英文ともに、細かな文法的なミス等は、採点の要素とはしないので、必ず自分自身で書き上げること。

問：留学を希望する理由について、以下の点に触れつつ、1200～2000 字で記述しなさい。

1. 現在、早稲田大学で学んでいること、これから学びたいこと。
2. 留学を通して得たいこと、今後の人生に活かしたいこと、今後のキャリアプラン
3. 出願している志望プログラムの志望理由
4. 自分自身の長所や短所（協調性や異文化への適応力について）

英文の字数制限は、600～1000 words 程度とする。

学習・研究計画書は派遣候補先大学決定後に必要に応じて先方に直接送付されることがあります。あらかじめご了解ください。

⑤ 登録完了確認、申請内容の確認メールがすぐに送信されます。（5分以内）

- ◇ 申請内容の確認メールの内容に間違いがないかを確認してください。メールの設定によ

っては、文字化けする場合がありますが、こちらに登録されたデータ上は問題ありませんのでご安心ください。

- ✧ ※届いていない場合は出願登録が完了していないこととなりますので、必ず届いていることを確認してください。

WEB 出願内容の確認に関して

(志望プログラムの確認)

志望プログラムに誤りがないか、十分に確認してください。同一大学でも英語プログラムと非英語プログラム、交換と TSA が実施されている場合があります。WEB 出願締め切り後の変更、修正はできません。

2. 出願必要書類提出 (10月23日(水)～10月25日(金)) 22号館8階会議室(西早稲田、所沢、本庄、北九州キャンパスの学生は所属事務所に提出も可能。GLFP 出願者の場合においては、指定の期日内(10月23日(水)、24日(木))に、直接22号館8階会議室に持参すること。) 志望するプログラムへの出願に際し必要となる書類を下記①～⑦を番号順に揃えて提出してください。提出書類の紙サイズは、可能な限り A4 サイズでご用意ください。なお、一旦提出された書類の返却は行いませんので注意してください。また、提出前に、自分用の控えとしてコピーを忘れずに取ってください。

注1) GLFP 単願の場合は、下記①～⑤の書類をすべてそろえたうえで出願窓口に提出してください。

注2) GLFP とその他プログラムの併願を志望する場合は、併願プログラムに必要な出願書類一式と、GLFP 出願用に『①、②、③のコピーを1部ずつ、④と⑤』の一式を揃えた上で出願窓口に提出してください。

注3) 学部の1年生は、入学した直後の学期(1学期目または1セメスター時)に出願する場合は、高校の英文成績証明書(原本)を提出する必要があるので、早めに準備してください。

●全員提出必須:

① 大学派遣留学プログラム誓約書3部(原本1部とコピー2部、両面印刷、裏面も記入)

- ✧ この要項に添付されているもの、もしくは留学センターのHPからダウンロードした所定の誓約書を使用し、必要事項を記入して提出してください(保証人の方の署名捺印も必要、日付も忘れずに記入してください)。
- ✧ GLFP に出願する場合は上記のプログラム誓約書3部に加え、別途専用の誓約書があります。上記、大学派遣留学プログラム誓約書のコピー1部に加え、GLFP 専用誓約書3部(原本1部とコピー2部)の合計4部が、単願・併願に関わらず必ず必要となります。
- ✧ 両面印刷並びに裏面にも記入することを忘れないでください。
学生本人、保証人の方両方の署名捺印が完了した後にコピーをとり原本とともに提出してください。
- ✧ 外国籍の方で印鑑がない場合は、記名+署名が必要なので注意してください(保証人欄含む)。

② 英文成績証明書(原本1部)

- ✧ 博士後期課程学生は修士課程・博士課程の2種類の証明書を提出してください。
- ✧ 修士課程学生は学部課程および修士課程の2種類の証明書を提出してください。
交換留学プログラム応募条件の成績は修士課程以上のものを対象とします。ただし、修士1年生で修士課程の成績が提出できない場合は、学部の成績を対象とします。
- ✧ 学部生は、学部の証明書を提出してください。
*国際教養学部の学生は、提出の必要はありません。事務所経由で留学センターに提出されます。
- ✧ セメスター制を採用している学部以外の学部の1年生、および2013年9月入学の1年生は、高校の英文成績証明書を提出してください。
- ✧ 自動証明書発行機から入手することができます。
(<http://www.waseda.jp/navi/services/opentime-certificates.html>)

●英語プログラム（GLFP 含む）への出願者は提出必須：

③TOEFL iBT、CBT、PBT のオリジナルスコア（Examinee Score Report）（原本1部）

- ◇ 応募時に TOEFL のスコアカード（Examinee Score Report／2011年11月以降受験分）を提出してください。（A4 サイズのまま提出。切り取らないこと）
- ◇ TOEFL-ITP で出願できるいくつかのプログラムを除いては、iBT、CBT、PBT いずれかのスコアカード（Examinee Score Report）が必要です。
- ◇ TOEFL-iBT については、WEB 画面で確認できるスコア表のプリントアウトでも受け付けます。スコアや名前が切れないように気をつけてください。ただし、後日そのプリントアウトと同一のオリジナルスコアカードを必ず提出してください。最終的にオリジナルスコアカードの提出がない場合は、無効となりますのでご注意ください。
※TOEFL の Examinee Score Report は、オンラインでのテスト申込時に My Home Page のスコア通知設定（Score Reporting Preference）ページで「オンライン上でのスコア確認及び郵送での通知」を選択しないと発行・送付されません。

TOEFL スコアの扱いについて

1. 各大学の要求スコアについて
各大学の要求スコアを超えるスコアを取得していることが必要です。
*GLFP 出願の場合は、各受入大学が要求するスコアに達していない場合も受け付けます。但し、学内選考後の派遣候補大学への出願時（2014年1～2月）迄には、必ず各大学の要求レベルに達したスコアカードの原本を提出することが条件です。
2. 有効期限について
2011年11月以降受験分が有効となります。
3. スコアカードは原則として返却いたしません。
4. TOEFL の有効期限は2年間なので、派遣候補大学への出願の際、およびビザ申請に必要な書類が派遣候補大学より発行される前に有効期限が切れる場合は、再受験が必要な場合もありますので注意してください。

●GLFP の出願者は提出必須：

④GLFP 専用誓約書3部（原本1部とコピー2部）

⑤GLFP 専用英語による志望理由書（原本1部とコピー1部）

- ◇ GLFP へ出願する際は必ず忘れずに提出して下さい。

テーマ：「3年半にわたるグローバル・リーダーシップ・フェローズ・プログラムを通して、あなたが取り組みたいこと、また、その経験を活かしてあなたが将来達成したい目標を論ぜよ。また米国の提携先大学のうち、特に留学を希望する大学や学科があれば、その具体的な理由を述べよ。」

(A4/2枚・片面印刷・シングルスペース・フォント12)

●非英語プログラムへの出願者は提出必須：

⑥「語学能力証明書」を希望者全員必ず提出してください。

- ◇ 教員による語学能力証明書を提出する場合には必ず教員に留学センター指定の厳封用封筒（で厳封してもらった状態）で留学センターに提出してください。
ただし、EX(TSA)プログラム、TSAプログラム、中期プログラムにのみ出願する場合は提出不要です。

●非英語 EX プログラムへの出願者はできる限り提出：EX(TSA)、TSA プログラム含む

⑦「各種語学能力試験等公的試験等のスコアやレベルの試験結果」

- ◇ 客観的な語学能力証明として、「各種語学能力試験等公的試験等のスコアやレベルの試験結果」（仏検、独検など）を所持している場合はできる限り提出してください。
- ◇ ただし、派遣先大学より、公的試験のレベルが指定されているプログラムに出願する場合は、要求レベル以上の試験結果を必ず提出することが必要です。

①面接必須英語プログラムに対するライティング High Advanced 講座について

- このページに記載されている内容は、2013年9月20日現在のものです。
- 対象校（面接必須英語プログラム）は以下のとおりです。
 - イエール大学（米・ISA）
 - ペンシルバニア大学（米・ISA）
 - カリフォルニア大学バークレー校（米・EX/ISA）
 - ※UCS（カリフォルニア大学群）は対象外です。
 - ※面接必須のカリフォルニア大学バークレー校（EX）は大学院生対象です。
 - ~~ジョージタウン大学（米・EX）~~、カールトンカレッジ（米・ISA）
 - オックスフォード大学ハートフォードカレッジ（英・ISA）
 - オックスフォード大学セントピーターズカレッジ（英・ISA）
 - ケンブリッジ大学ペンブルックカレッジ（英・ISA）
 - ブリティッシュコロンビア大学（加・EX）
 - シンガポール国立大学（シンガポール・DD）
 - パリ政治学院（ル・アブル校も含む）の英語プログラム（仏・EX）
- 今後何らかの事由で対象プログラムやライティング High Advanced 講座の内容が変更される場合があります。その場合、変更が発生した時点での留学センターによる決定、告知内容がこのページの記載内容より優先されます。
- 詳細が決まり次第、留学センターのウェブサイト上でお知らせします。

上記のプログラムについては、参加する早大生に対して対象校から高度な英語能力が要求されています。ここでの英語能力とは TOEFL スコアだけではかることができないものではなく、現地で正規学生・教員とともに授業に積極的に参加、課題に取り組み、共にアカデミックな成果を挙げることができる、総合的な英語力です。対象校からの早大生に寄せる期待と対象校のほとんどがプログラムで語学学習をサポートする授業を提供していないことを鑑み、留学センターでは対象校への派遣候補者全員に対し選考過程の一部として、ライティング High Advanced 講座の受講を義務付けています。

1. 12月2日（月）の結果発表で対象校への派遣候補者となった方については、その時点で「仮合格」と位置付けます。仮合格の後、留学センターの指定するライティング High Advanced 講座を受講（有料）いただき、同講座における評価と入学以降2013年度末までの所属学部・研究科の学業成績を確認したうえで、3月下旬に総合判定を行い、最終的な派遣候補者を決定する予定です。本講座を受講しなかった場合、「仮合格」が取り消されることもありますので、ご注意ください。
2. ライティング High Advanced 講座の詳細（受講料・講座内容ほか）については留学センターのウェブサイト上で随時告知していく予定です。12月2日（月）の結果発表で対象校への派遣候補者に選出された方は、12月13日（金）の派遣候補者決定直後オリエンテーションにて案内します。※現時点では、3月中の5日間を予定しています。受講必須となっている該当者の方は、必ず受講できるようスケジュール調整をしてください。なお、講座実施期間に変更があった場合は、留学センターウェブサイトで告知しますので、注意してください。

②GLFP に対する留学準備講座および GLFP 派遣準備コースについて

- GLFP 派遣候補者には、高度な英語能力のみならず、論文を書く力やプレゼンテーション力、米国名門大学での授業を理解した上で自らアウトプットする力が求められています。留学センターでは GLFP 派遣候補者全員に対し留学準備講座と GLFP 派遣準備コースの受講を義務付けています。留学準備講座受講料は自己負担となります。受講料や講座内容については随時お知らせしていく予定です。

1. 「留学準備講座」では英語のエッセイ・ライティング、ディスカッション、プレゼンテーションなどのアカデミック・スキルを身につけます。3月中の5日間及び6月の週末（1回）を予定しています。
2. 「GLFP 派遣準備コース」では英語による少人数のクラスを通じ、グローバル・リーダーに必要な不可欠な基礎知識を習得します。春学期に1科目を設定する予定です。

今後何らかの事由で講座や科目の内容が変更される場合があります。その場合、変更が発生した時点で留学センターによる決定、告知内容がこのページの記載内容より優先されます。

7. 派遣留学奨学金

1. 派遣先大学から支給される交換留学奨学金

2001年度に本学が設立した「交換留学生奨学金制度」は、協定交換で相互に食費、住居費相当額を目安とした奨学金を提供することにより、交流を促進することを目的としています。これにより、本学からの該当校への交換留学生（原則1名）には奨学金が給付されます。なお、先方の都合により、支給金額に変更が生じる場合もあります。また、本奨学金を含め、留学に関する奨学金の併給はできません（一部例外あり）。対象校についての最新情報は留学センターWEB ページまたは“留学の手引き”をご参照ください。

2. 留学生交流支援制度（短期派遣）

文部科学省の外郭団体である（独）日本学生支援機構の奨学金です。
対象：早稲田大学の派遣留学プログラムで留学する学部・大学院学生
（「留学」の在留資格で滞在する外国人留学生を除く）
奨学金：月額6～10万円（給付）※地域によって異なる
支給期間：12ヶ月以内
採用者数：未定

詳細は、12月13日（金）の派遣候補者決定直後オリエンテーションにおいて、説明いたします。

3. 早稲田大学学生交流奨学金

対象：早稲田大学の派遣留学プログラムによって留学する学部・大学院学生
奨学金：年額25万円（給付）
採用者数：150名（2014年度予定人数）

詳細は、12月13日（金）の派遣候補者決定直後オリエンテーションにおいて、説明いたします。

4. Waseda-US 奨学金～早稲田大学創立125周年記念～

この奨学金は早稲田大学創立125周年を記念して設立された奨学金です。本学が指定するアメリカ国内の名門大学に留学センターのプログラムで留学する学生を対象とし、本学の国際競争力強化や国際社会への貢献に資する人材の養成を目的としています。

対象： 留学センターのプログラムで早稲田大学が指定するアメリカ国内の協定校へ留学する学部生・大学院生
～2014年度対象校（予定）～
・カールトンカレッジ（米・ISA）
・イエール大学（米・ISA）
・ペンシルバニア大学（米・ISA）

上記対象校の派遣候補者（仮合格）として選出された後、ライティング強化講座の評価と入学以降2013年度末までの所属学部・研究科の学業成績を確認したうえで、派遣候補者として最終的に選抜された者の中から、奨学金受給者を決定いたします。（2014年7～8月に発表予定）

※上記対象校の派遣候補者（仮合格）として選抜された者は、自動的に Waseda-US 奨学金の選考対象者となりますので、本奨学金についての応募手続きは不要です。

奨学金： ・カールトンカレッジ：上限8,000米ドル給付（予定）
 ・イェール大学：上限8,000米ドル給付（予定）
 ・ペンシルバニア大学：上限8,000米ドル給付（予定）
 （奨学金相当額を派遣先大学に直接送金する方法により給付する予定）

採用者数： 12名（予定）

5. 校友会海外派遣留学奨学金

○対象：早稲田大学が指定するオックスフォード大学、ケンブリッジ大学の特定のカレッジに、留学センターの留学プログラムを通して派遣される者。海外留学に対する意欲が高く、人物が優れている者。

○人数：5名（予定）

○奨学金：年間150万円（※事情により増減される場合がありますので、あらかじめご了承ください。）
 今回の募集における対象プログラムは、オックスフォード大学ハートフォードカレッジ（ISA）、オックスフォード大学セントピーターズカレッジ（ISA）、ケンブリッジ大学ペンブルックカレッジ（ISA）です。

※上記奨学金の実施内容は変更の可能性がありますので、最新情報を留学センターホームページで必ず確認してください。

<http://www.cie-waseda.jp/jp/sa/other/sc/#a01>

※必ずしも全員が受給可能とは限りません。

※上記1～5奨学金は他の奨学金との併願は可能です。他団体等の奨学金を併願する場合、それぞれの要項にて、併願の可否を各自で確認してください。

早稲田 US 奨学金および校友会海外派遣留学奨学金のスケジュールは、以下のとおりです。

日程	時間	内容・会場
12月2日（月）	13:00～	選考結果（仮合格）発表（Waseda-net個別通知にて）
12月中[仮]		ライティングHigh Advanced講座受講申込の告知
2014年1月中 [仮]		受講証の配布・受講料のお支払 【ご参考】2013年度実施ライティング講座受講料：¥15,000/10回 *金額は昨年度実績。2014年度は講座内容に伴い金額変更する可能性があります。
春季休暇期間中に指定 する5日間[仮]	2コマ/1日 [仮]	全10回[仮] ライティングHigh Advanced講座 ※Waseda-US奨学金、校友会奨学金の受給候補者の方はこの講座の受講が必須です。
2014年3月下旬	後日告知	面接必須英語プログラム 派遣候補者最終決定
2014年6月 ～8月	後日告知	Waseda-US 奨学金・校友会海外派遣留学奨学金受給者発表

※なお、日本学生支援機構奨学金（第一種、第二種）は、「留学奨学金継続願」を奨学課に提出することにより、留学中も継続して貸与されます。この奨学金については奨学課にお問い合わせください（戸山キャンパス学生会館1階）。

8. プログラム選択時の海外での安全情報の確認

「2013-2014 STUDY ABROAD 留学の手引き」 日本語版 P25 記載のとおり、留学先地域の検討に際しては、自分自身で地域の安全情報を確認するとともに、現在の国際情勢では、渡航、滞在中も常に注意が必要であることに留意してください。外務省では、海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/> で、地域別国一覧から、その国の最新の海外危険情報、過去の情報データベース、多発している事件の傾向と対策など、きめ細かな渡航情報を提供しています。

「危険情報」が出されている地域もありますので、当該地域を留学先として検討している場合には、自己責任がとれる範囲内で学習や研究上の必要性を勘案した上で出願してください。

9. お問い合わせ先

早稲田大学留学センター

〒169-0051 新宿区西早稲田 1-7-14-3F 留学センターインフォメーションルーム

E-mail: out-cie@list.waseda.jp

GLFP 問い合わせ: glp-office@list.waseda.jp

開室時間は平日の 12:00～17:00

以上

10. 出願登録 Waseda-net Portal 画面見本

WEB 出願登録は、こちらから

The screenshot shows the Waseda-net Portal interface. At the top, there is a search bar and a navigation menu. A callout box highlights the '国際交流・留学' (International Exchange & Study Abroad) link in the menu, with the text 'ここをクリック' (Click here). The main content area displays a 'Head Line' section with a notice about the 2004 academic year exam schedule and a '障害・メンテナンス情報' (Disaster/Maintenance Information) section regarding network issues. A sidebar on the right contains links for 'FAQ', 'マニュアル', '学籍情報検索システム(WINE)', '各種予約', '各種規約', 'ITセンター ヘルプデスク', and 'English'.

派遣留学出願登録は、この WEB 登録のほかに、出願必要書類提出が必要です。提出期間は、10月23日(水)～10月25日(金)です。

11. 出願時のチェックリスト

*提出は必要ありません

WEB 出願登録 (10月8日(火) 正午～10月21日(月) 中) *10月22日(火) の00:00 締切り。時間厳守!

- 募集要項を見たら志望大学の選択を開始し、一度は登録画面を見てみましょう。
- Waseda-net ポータル画面にて、10月12日を目途に一度はWEB出願を試してください。
「登録」は何度でも可能です。
- プログラムリストを含め、出願前に最新情報を留学センターのHPを再確認しましたか?
- 最新の「登録」に対する「登録内容確認のメール」の内容に間違いがないかをよく確認してください。

出願期間：10月23日(水)～10月25日(金) 12:00-17:00 *時間厳守!

GLFP 志願者は10月23日(水)、24日(木)の2日間

提出場所：22号館8階会議室

全員提出必須：

- ①大学派遣留学プログラム誓約書3部(原本1部、コピー2部、両面印刷)
*裏面の志望プログラムのページ含む、印鑑忘れ、署名、日付の記入に注意。
- ②英文成績証明書1部
*留学がカリキュラムの一環である国際教養学部の学生は提出の必要はありません。
*セメスター制を採用している学部以外の学部の1年生、および2013年9月入学の1年生は、高校の英文成績証明書を提出してください。

英語プログラム (GLFP 含む) への出願者は提出必須：

- ③TOEFL iBT, CBT, PBT のオリジナルスコアシート (Examinee Score Report)
もしくは、TOEFL-ITP のオリジナルスコアシート:1通
*iBT はインターネット上で閲覧できるスコアのプリントアウトでもかまいませんが、後日必ず同一のオリジナルスコアカードを提出してください(プリントの際、名前やスコアが切れないように注意)。
*TOEFL-ITP でも出願可能なプログラムのみに出願する場合は、TOEFL-ITP のみの提出でよいですが、iBT, CBT, PBT いずれかが必要なプログラムと併願の場合には、両方のスコアカードが必要です。
*TOEFL の Examinee Score Report は、オンラインでのテスト申込時に My Home Page のスコア通知設定 (Score Reporting Preference) ページで「オンライン上でのスコア確認及び郵送での通知」を選択しないと発行・送付されません。

グローバル・リーダーシップ・フェローズ・プログラム (GLFP) への出願者は提出必須：

- ④GLFP 専用誓約書3部(原本1部とコピー2部)
⑤GLFP 専用英語による志望理由書(原本1部とコピー1部) ※詳細は P16 参照
・GLFP 単願の場合は、①～③に加えて、④と⑤を揃えた上で出願窓口に提出してください。
・GLFP とその他プログラムの併願を志望する場合は、併願プログラムに必要な出願書類一式と、GLFP 出願用に『①、②、③のコピーを1部ずつに加えて、④と⑤』を揃えたうえで提出してください。

非英語プログラムへの出願者は提出必須：

- ⑥教員による語学能力証明書(留学センター指定の厳封用封筒で必ず厳封のうえ提出のこと)
*非英語の EX(TSA) プログラム、TSA プログラム、中期プログラムのみを希望する場合は不要
*証明書が提出できない人は、理由(例：母国語のため)を記入し、署名したうえで提出してください。
*既に他の留学プログラムにて現在留学中の場合は、理由にその旨を記入し、現在の語学能力を証明できる教員に依頼してください。

非英語プログラムへの出願者はできる限り提出してください EX(TSA)、TSA プログラム含む

- ⑦出願プログラムで使用する言語の語学能力証明書(仏検、独検など)
*ただし、派遣先大学より、公的試験のレベルが指定されているプログラムに出願する場合は、要求レベル以上の試験結果を必ず提出することが必要です。

①～⑦のうち、自分の志望するプログラムに提出する必要がある書類を、なるべく A4 サイズに統一して、上から①～⑦の順に揃えて提出してください。